

⑤3 人々が集う空港に！ ～多彩に遊べる魅力空間を目指して～

受賞機関 但馬空港ターミナル株式会社

キーワード 空港の賑わいづくり、地域活性化、
地域との連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

空港の運航していない時間・スペースの有効活用の取組。利用の少なさを逆手にとった運用や、空港施設の活用として「なるほど!」という取組みにより地域住民への興味関心の喚起及び地域活性化をした点が評価された。

1. はじめに

コウノトリ但馬空港は、平成6年に兵庫県が、県北部の但馬地域の発展を支える重要な高速交通インフラとして豊岡市に設置した滑走路長1,200mの「その他の空港」である。平成27年以降は、コンセッション方式により、但馬空港ターミナル(株)が管理運営を担っており、伊丹空港との間に朝夕各1往復、プロペラ機(ATR42-600)が就航している。定期便の合間の時間を活用し、全国的にも珍しい特色あるイベントや地域との連携事業を実施し、空港の認知度向上や利用促進、地域活性化に取り組んでいる。

2. 事業の概要

1) 全国的にも珍しい先進的な取り組み

「但馬空港まるごと見せちゃいますツアー」は、滑走路、対空通信室など普段は立ち入りできないエリアを1日1組限定でご案内。リピーターも多く、全国の航空ファンにご参加いただいている[令和3年度利用者:202人/64組]。

「Airport Campsite in TAJIMA」は、滑走路に隣接する芝生広場で行うキャンプ。飛行機の離着陸を間近で見学できるロケーションに、各地から親子連れが集まり、令和3年度はキャンプ場面積を5倍に拡大(0.8ha)[令和3年度利用者:2,347名]。

「コックピットトイレ」は、大型ステッカーでターミナルビルの個室トイレにコックピットを再現。利用者からは、「パイロットになった気分」などと好評であり、全国区のテレビ番組でも取り上げられている。



但馬空港まるごと見せちゃいますツアー、空港キャンプ

2) 地域と連携した取り組み

「空港コンサート」は、地域主催の音楽祭「おんぶの

祭典」やクリスマスなどの季節行事に合わせてプロの音楽家を招聘。空港の多目的ホール等で、本格的な音楽を気軽に楽しんでもらえるイベントとして、地域の方々にも定着している[令和3年度:4回開催]。

令和3年度には、地元建設業協会と共同で「空港除雪隊」の愛称を募集。43都道府県から434通の応募があり、「コウノトリ スノーバスターズ」に決定した。地元建設業者により編成され、空港運営を陰で支える除雪隊の活躍を、広く発信し、親しみを感じていただくきっかけとなっている。

また、廃止された空港無線施設「ボルデメ」の観光資源化に向け、利活用策のアイデアを募集。地元の芸術文化観光専門職大学・豊岡総合高校の学生13チームから提案をいただいた。

上記以外にも、空港を多くの人に知っていただくため、地域の方々と連携し「滑走路早朝ジョギング大会」や「空港軽トラ市」「空港クイズラリー」など、様々な事業を展開している。



学生と利活用策を検討!

空港コンサート、ボルデメ

3. 事業の成果

令和2、3年度は、コロナ禍により参加者の減少や中止となった事業もあったが、紹介した様々な取り組みを通じて、地元や全国の航空ファンの皆様に、空港に親しみをもっていただいた。またテレビ、新聞等でも多く取り上げられ、空港の賑わいづくりや認知度向上を図るとともに、利用促進に繋げることができた。

4. おわりに

コウノトリ但馬空港は、但馬地域の高速交通を担い、災害時には防災拠点として機能する重要な社会基盤である。コロナ後を見据え、空港の賑わいを利用者の増加や但馬地域の活性化に繋げていきたい。